

内谷市長の

ゆるやか「ラム

「20年、30年先を見据えたまちづくりを」

5月に入り、新緑が目に見え、鮮やかな、気持ちの良い季節となりました。今年の4月は天候に恵まれ、例年よりも早く、美しく咲き誇る桜を楽しむことができました。市内各地でも桜の名所巡りやまち歩きといったイベントが開催され、皆様も春の訪れを存分に満喫されたことと思います。

一方で、昨今の世界情勢に目を向けますと、関税問題や中近東での軍事紛争など、先行きが不透明な状況が続いています。日本経済においても物価高騰が続いており、皆様の暮らしに少なからず影響が出ていることと案じております。

私たち市役所では、今年度の目標として「未来への挑戦―安心と希望をつなぐまちへ―」を掲げ、職員一同、一丸となってスタートを切りました。国や県とも密に連携し、市内の企業や事業者の皆様、そして市民の皆様の暮らしを守るため、あらゆる施策に全力を尽くしてまいります。

さて、5月の長井市は活気に満ちています。白つじまつりや黒獅子まつりが開催されるほか、中旬には全国中



心市街地活性化推進協議会総会・全国研究会が長井市で開催されます。全国12の都市から市長や職員の皆様をはじめ、国土交通省や山形県の県土整備部、産業労働部から多くの皆様をお迎えすることとなります。ウォークブルなまちづくりや市街地再開発事業など長井市の取り組みについて意見を交わし、くるんとや文教の杜ながいなど市内施設をご覧いただく予定です。

中心市街地の活性化に力を注いでいくことは、若者や子どもたちがこの長井で希望を持ち、持続可能な地域社会として住み続けられることにつながると考えています。先行きが見えない時代だからこそ、私たちは20年、30年先を見据えたまちづくりを進めなければなりません。

昨今は、面白い話題が少ないと感じることもしばしばあるかもしれません。しかし、こんな時こそ市民の皆様と心をひとつにし、自分や家族の暮らし、そしてこの地域の未来のためにお互いに励まし合いながらこの厳しい局面を共に乗り越えていきましょう。